

★ 広報ごかせ ★

五ヶ瀬町役場
昭和33年1月1日
(第2号)

あけまして

おめでたいございます

昭和三十三年一月一日

年頭のことば

五ヶ瀬町長 原 田 敏 章

昭和三十三年の新春を、皆様とともにむかえし、心から御喜びを申しあげます。

昨年は、新町発足後二年目ではありましたが、新町の基礎を固めるためにあらゆる努力を尽し、諸種の事業も多かつたために、一昨年につづく多難な年であったということが言えると思います。又昨年は未だ嘗てない悪疫の流行に見舞われたこと、火災の発生件数等も多かつたことなどから、町民の皆様には思いもかけぬ不祥事で大変御苦労をおかけしましたことなども、今年頭に望んで回顧し、今年こそは、こうした不慮の災難に再び見舞われることのないよう、禍を転じて幸福とするよう今から充分注意し、お互に協力しあつて行かなければならないと覚悟を新にする次第でございます。

昨年に実施しました事業につきましても、その種類と事業量の多いことでは、これまた未曾有のことです。昨年は有線放送事業は未だ皆でない大規模なものであり、農繁期のことでもあり、随分御迷惑もおかけ申したのでありますが、これを真に町民の文化と福祉のために育成することが、有線放送にかけ

られた大きな使命であると信じていますので、今後とも益々御協力を頂きますようお願いして止みません。

又昨年は五ヶ瀬町産業祭を較岡で開催し、次の審査報告でも承知されるように、皆さまの出品物が、その質、その量に於て、一昨年に凌駕する盛大さを見ましたことは喜びに堪えないところでございます。

次に、一昨年小笠直一さんが黄綬褒賞の御名譽をうけられました喜びにつづいて、昨年は成松宇一さんが黄綬褒賞をうけられ、二年もつづいて五ヶ瀬町からのお二人の方が、この偉大な榮譽を担われたことは、ひとり御本人の御名譽にとどまらず五ヶ瀬町にとりましても此の上もない名譽であり、深甚の謝意を表してやまないものであります。その他のいろいろ申しあげることがは尽きないのであります。

昭和三十三年の年頭の所感として、本年は益々国や、時代が要請している新

しい町づくりと町民福祉のために努力をいたし、このために当面する笠部道路の促進やその他の重要事業の促進に努力し、町としての財政的な基盤を、益々培養し、町の永遠の経済力を培うためにはどうしても林業の振興を図ることが急務でありますので、植林事業の奨励に力を尽したいと考えてあります。

どうか益々全町一体の和と信頼の上に立つて、新しい町づくりにこの上とも御力添を願つて止みません。

この度の町報は、産業祭関係の審査報告を主体にして発行いたしましたので、そのお積りでゆつくり御覧いただきたいと思ひます。こうした専門的な立場からの批判と意見は、技術的に学ぶべきものがあるものと信じますので、日頃の仕事や計画の上で御役に立てていたかどうか、多忙の中を本紙のために割いて御寄稿願ひ、集録をいたしましたので、わが家の、わが町の産業の振興に座右の手引として御利用下さいますようお願いいたします。

各種品評会の審査講評を
お届けするに当りて
五ヶ瀬町経済課長 後 藤 勝
昭和三十三年度各種の品評会褒賞授与式を去る十二月一日本町第三回産業まつりの表彰式に於て、盛大に

挙行出来ました事は誠に御同慶に堪えないところで、授賞の榮譽をうけられた入賞者各位に衷心よりお慶びを申し上げます。

当日表彰式に於ては種目毎の審査報告を略し、事務局当局より極めて簡単なる品評会の経過報告を申し上げたにすぎませんでしたので、茲に町公報新年号の貴重な紙面を割愛していただき審査員各位の種目毎の審査講評を集録して町民各位にお届けする事と致しました。

さて此の機会に産業祭に於ける陳列展示品評会の出品についていさか所感の一端を申し上げて見ますと、出品が年々点数の増加と内容の充実を来しておりますことは誠に喜ばしい現象であつて、斯うした現象は取りもなおさず町民各位の此の催しに対する理解と熱意が昂まり、同時に又町全体の産業が向上しつゝあると云ふことの証左であると信じます。然し出品物の個々について検討しますならば、審査講評の中に於て指摘されるように研究と努力の余地が相当に多い事を感ぜさせられます。出品物は唯単に会場の賑かしであつては意味なく、その産業なり生活、文化の向上を促す価値を備えたものであり、又郷土色豊かな創意と工夫を凝らしたものでありたいと思ひます。

次表は参考までに各区毎の出品と入賞の点数比率を表わして見ました。

区名	出品点数	入賞入賞率(%)
第一区	四	三三
第二区	八	三三
第三区	二七	三三
第四区	七	三三
第五区	二六	三三
第六区	二六	三三

第七区	三	一五	四八、三
第八区	三	一三	六、九
第九区	三	四	一六、〇
第一区	二八	三	三、一
第二区	二四	二	二八、五
第三区	八	一九	三、九
第四区	二四	一五	二、五
第五区	四	一三	三、九
第六区	二四	一五	二、五
合計	二四二	一五五	二、四

(備考) 右表は陳列展示品評会のみの数字

次に年毎に盛大となり、産業まつりに最もふさわしい行事である青年、婦人の研究発表については、万難を排して積極的に御協力を戴く青年、婦人諸氏の御熱意に対して心から敬意を表する次第であります。

毎日々々の実生活を通じて研究の足跡を記録づけて行くこととは並大抵の

審査報告

五ヶ瀬地区農業改良普及事務所

佐藤 誉美
内 勢 房 夫
厚 地 幸 雄
矢野 ス マ

一、水 稻

水稻多収穫品評会の出品点数は六五点で、やや淋しさを感ずるのであります。が、この事は例年の事ながら県農作会に出品される以外のものは、出品田としての計画性がなく、所謂出来合せのものを出品すると言ふか、あるいはその殆んどであるかと思ひます。

品種の選択、苗代の播種期や様式、本田での施肥設計等、計画的な栽培によつて出品点数の逐次増加すること、町内全体的な反収の増加することを期待してやみません。

次に審査を終つて感じました事項の二、三を具体的に述べてみましょう。

(イ) 例年の事ではありますが今年も亦、保温折衷苗代による早植のものが入賞したものの殆んどであつた様であります。

全稲作期間を通じて今年の大寒は必ずしも恵まれた天候ではなく、特に最高気

苦勞ではなく、こゝから生れる悪い資料は文化の向上、生産の増強、生活の改善にとつて偉大なる貢献をもたらすものであることは申上げる途もないことで、今後町民各位の一段の御熱心と御協力を切望して止みません。

最後に各種品評会の催しに終始御協力を戴きました関係機関並に審査員各位の御芳苦に深甚の謝意を表しますと共に、私共事務局(係員)の不行届きがちのため、いろんな御迷惑を御かけした点を深く御詫言申上げ、来る三十三年度品評会については一層の意義あるものとせしむるべく、町民各位の御協力と御鞭撻を切に御願ひ申上げて止まない次第であります。(完)

温の状況等を見てみましても、過去の三ヶ所の平均最高と比較して、七、八、九月にかけては二度〜三度の低温で過してあり、その間幼穂形成期以降に二〜三日間寒三、四回の低温に見舞われ、また台風七号、一〇号と二回の来襲をうけており、しかも九月末から一〇月の登熟期の低温は特に遅植の水稲には大きな被害を与え、稔実の不良や水田の青立ち増加等冷害によつて予想外の減収を来したものであります。このことは特に裏作あとの水稲の品種について、検討の要にせまられておる事を痛感すると共に、可能な範囲内においては保温折衷苗代による(ビニール苗代がよい)早植が本地域の稲作の増収と安定のために絶対的な栽培法であることを再認識させられた次第であります。

(ロ) 品種についてみて見ますと、保温折衷、普通水苗共に農林十八号、宝がそ

の主体となつておりますが当地域の標高、或は気象的条件よりかんがえて保温折衷苗代では、熟期、脱粒の問題等諸種の点よりかんがえてナカセンゴク等がこれらにかわる品種でも標高五五〇米以上にもなる地帯や鞍岡全域では農林二十九号、二十三号、農林十七号等を当然かんがえるべきであると思ひます。尚裏作跡の品種としては今年の試作圃の成績から見ても農林二十九号が一応安定した品種といえるでしょう。

(イ) 山間高冷地帯の通例であります、水口の改善については殆んどその方法の講じられていない事は遺憾であります。特に一筆面積の少ない当地域の水田では水口の水温上昇のために、格段の工夫と研究が望ましい次第であります。

(ロ) 病害虫の防除については逐次その徹底を期して実施されつつありますが、薬剤散布の時期及び方法についてはまだまた検討の余地があると共に、出来るかぎり共同防除の態勢を整える必要があると思ひます。本年は特に十号台風後の白葉枯の異状な発生を見たのであります。台風直後のホクビイモチ病の防除をかねての薬剤の散布が肝要であると共に、防除のキメ手のない白葉枯病に對しては耐病性品種の栽培に於いての検討が特に必要になつて来たようであります。(宝、金南風は特に弱い)

(ハ) 坪当穂数については毎年少しづつ増加をみておることは喜ばしい次第であります。が、全体的に見ると穂数確保の基本である、坪当の植込み株数を今少し増加する必要があるものが非常に多かつたようであります。坪当りの株数一株当りの植込み本数については、品種、苗の良否、地力や、施肥設計等によつて違つて来るので充分御検討をねがいます。

二、麦 類

総出品点数三三点そのうち大麦五〇点、小麦三二点で大麦は出品点数の大部分が畑作でしめられており、畑

作地帯においての食糧用としての麦に対する関心が如何に高いかがうかがえると

(イ) 入賞したものも上位には畑作地帯の麦が多かつた事も当然の結果といえるでしょうが、今年度は優等に水田裏作麦の入賞をみた事は、水田裏作麦も栽培方法のいかんによつては相当増収余地のあることを実証してくれたものと大変嬉しく思つております。

(ロ) 品種の点については三ヶ所地域の方は旭十九号が圧倒的に多く、絶対収量のみをかんがえない場合には、この品種が大変都合よく農家経営の仕組みの中に取入れられる特性をもつてゐるからに外なりません。鞍岡地域においては可成り多くの品種が出品されてゐたようでありましたが、労力の配分や麦跡の作物の作付等を考慮して、経営合理化のための品種の転換に格段の検討が望ましい次第です。

(ハ) 麦作全体から見れば熟れ色等から見て必ずしもよい出来栄とは思へなかつたのであります。が、この事は作付期の晴天の連続のために、全部の麦がおさまきの状態となり充分な根の伸長や、地上部の生育を見ないうちに寒害に見舞われ従つて、地上部、地下部共に総ての生育が春先に持ち越されたために登熟でなく枯れ熟れの状態を呈したものが非常に多かつたようであり、これは本年は本地域の麦作はなるべく早く播種し(十月末〜十一月初め)合理的な施肥、管理によつて寒害に入る前に、かなりの茎数確保をすると共に踏圧、土入れ等越冬態勢をととのえるために充分な管理のできる様にする事が増収上の緊要事項と思われま

(ニ) 小麦については春先きになつての窒素の追肥やお手入れのために出来おくれの状態となり黒銹病の激発等によつて著しく品質の低下を見たものが多かつた様であります。が、農林三十六号、農林六〇号の晩生種のみである小麦について

はその栽培管理について格段の研究を切望いたします。又、ナマグサ黒穂病、カタ黒穂病の発生を認められたものも二、三あった様でありましたが、これ等については現在では既に品評会に対して「出品価値なし」と極言しても差支えないと言えらるでしょう。

三、な た ね

育苗期の台風と定植時の乾燥つづきは、今年のなたね不作の大きな原因であつた様であります。上位入賞の二、三を除いては、殆んど見るべきもののなかつた事は残念であり、従つてのべるべき事項もあまりありませんが一二点を申し上げて見ますと、

(イ) 反当植込み本数の少ないものがまだ相当多く認められた様であり、従来の大苗疎植から若苗早植又は直播等、栽培の方法も逐次變つており、一般的には小苗密植が現在では栽培の主体であるので、反当り四〇〇〇本以上は是非植込むこととす。

(ロ) 生育の過程において明らかに肥切れしたと思われたものがあり、なたねでは特に窒素肥料の不足は極端に収量の低下をきたすと共に菌核病発生の大きな誘因にもなるので、適期に窒素分の追肥を欠かしてはなりません。尚窒素肥料偏用のために三月下旬におそつた寒波によつて、甚大な寒害をうけたものもあつた様であります。之等は肥料の適正施用について特に研究を願います。

(ハ) 毎年の事ながらアブラ虫の駆除については特別の処置の講じられていないかつた事は残念であります。

四、白菜立毛

七号台風は丁度苗床末期又は本畑への定植の初期であり、防災の対策については格段の努力がはられた事は高冷地白菜の今後の発展のために大変心強く感じた次第であります。品種の転換もされた今後の高冷地白菜は九月下旬から十月上旬にかけての出荷を目途として播種することによつて

有利に販売ができと思われませんが、生育期間が大変短くなつてきた今年の品種(野崎交配二号、春蔭極早生)では生育期に應じての肥培管理には特に意をそそぐ必要があると思われまゝす。又反当の植込み株数についても品種の転換に伴い今後の検討によつてかなりふやかねばならぬものが多いかつた事を付け加えておきます。

五、園芸農産品

今年もまた七号、一〇号と二回の台風によつて特に園芸作物では大きな被害を蒙つたのでありますが、にも拘らずその出品点数なりでは、かなりの充実向上の跡の窺われた事は喜びにたえません。白菜、人参、大根、ホーレン草等一堂に陳列された情景は何といつても、産業祭展示品中の圧巻と言へるでしょう。

金紙のつけられる優等はその出品物では横綱であります。それだけに素質、風格等、堂々として実力の相そなつたものでなければ

ことながら、特に堆肥の増施と共に、金肥施用の合理化がこの結果を生んだものと思われまゝす。ただ上位のぞいでは現在まである白菜としては、やや重量に欠けるうらみがあつた様であります。亦出品された物のそろいの悪いものが何点かあり、根付きのままで出品されたものも二、三点あつた様であります。これ等については次回より充分に研究して出品されることを切望します。

(ロ) 大 根

本年度は予想外の優品があり特にタクアン用として申し分ない、大きなサイズのものも揃つていた様であります。タクアン大根は特に八〇日、九〇日(秋どり)程度で収穫することが美味しいタクアンを作る上に大事なことでありますので、この期間に適當な大きさのものを作つよう肥培管理に研究をまづけて下さい。例年あまり良くなかつた宮重についてもかなり良いものが認められた様であり、聖護院、燕についても入賞したものは相当優秀な



展 示 場 風 景

ものがありました。その他については、目ばしいものはなく特に赤燕には見るべきもののなかつた事は遺憾であります。出品物の揃については大根類では特に研究の要があり、尚規格外(二本)で折角の大根が入賞を逸したもののあつたことは残念でありました。

(ハ) ホーレン草

昨年にくらべて出品点数の上では又質の点から見ても非常に優秀な物が多かつたことは、農山村の食生活改善のための重要な役割を占める、家庭菜園の充実が推測され大変結構なことと

存じます。御承知のようにホーレン草の生命は鮮度が第一であり、次に病害等の痕跡がみとめられず、手ごろの大ききである、言い換えますと、誰でもこのホーレン草なら是非食べてみたいと言ふ感じを起させるようなものである事が大切であります。その点から見ますと、やや大ききに過ぎるもの、又は窒素にかたより過ぎて、みずみずしさの中に大変弱々しさを感じさせるものもあつたことは、播種期や施肥等研究の余地あるものと思われまゝす。

(ニ) にんじん

家庭菜園には欠くことの出来ない有野菜の王座であり、例年熊本方面から多大の移入を見ておる現状からして、自給態勢を確立するために町内での換金野菜としてぜひ検討をお願いしたい次第であります。昨年頃か品質、量ともに格段の進歩的向上のあとが認められた事は慶びにたえませんが、今年の出品されたものも昨年同様上位のものは殆んど五寸人参の系統であり、しかもその大部分が黒田五寸であつた様であります。長根種の方ではまだまだ尻落ちのものがかなり認められた様であり、整地並びに地力の培養、肥培管理については尚一層の研究を要しますが、本地域としては黒田五寸人参を一応奨励品種と考えてもさしつかえないと思はれる次第です。

(ロ) こ ぼ う

かなりの適地もあり、努力のあとは認められました。が残念ながら昨年にくらべ向上の跡が認められなかつた様であります。太り過ぎや、はだのあれたもの、不揃い、極端な尻落ちのもの、短根に過ぎるもの等何れかの欠点が見られたものであります。天返しによる耕土の深層までの培養、砒土の入念、施肥の方法等について今後の努力をお願いいたします。

(ハ) か ん ら ん

出品点数に比較して優品の見出せなかつた事は残念でありました。大ききにく

らべての球のしまりの悪いもの、玉の揃いの悪いものがほとんどであつた様でありますので肥料（特に堆肥）の増施によつて初期の生育を旺盛にすると共に生育後期の肥切れをふせぐ事と適期追肥について特に研究をお願いします。

(ハ) ねぎ

かんらん同様優等に値するものがなかつた事は淋しい限りであります。茎のしまり具合等については一、二、良い物もあつた様であります。全体的に見て白根の長さが短く、青葉の損傷のひどいものが多かつたようであります。大麥栽培期間の長い作物ではあります。全般的な栽培技術の面では尚、一層の研究をお願いしますと共に、家庭菜園中の重要な一野菜として、亦人参同様町内自給のための検討をお願いする次第であります。

(ニ) その他

本年も非常に優秀な玉ねぎの出品されていた事は本地域の裏作としての、玉ねぎの換金価値を再認識させたものとして意を強くした次第であります。コンニャクの価値等については今更云々する必要もなく、その他の出品物については取立てて申しのべる必要もありませんが、柿については本地域では年間気温の平均から見て渋柿の地帯である事をつけ加えておきます。

六、工作品

本年はほうきの出品が非常に多かつた様であります。が、農家の副業として奨励されておき、当然優位に入賞すべきであります。が残念ながら本年は技術の面で見ると、賞品のものがなかつた様であります。また折角のよい出来の物もキビの栽培並びに採穂の時期の悪かつたものがあつた事は惜しいことでした。

木工品、竹工品、ワラ工品等毎年ほとんど大差はない様であり、その他数多くの種類の物が出品され、それぞれの特徴なり、ぬうちのあるものであつてその選抜には仲々苦労したのであ

ります。

唐人がるい等の現在での実用価値については申しのべる必要はありませんが毎年同じ様な程度であり、之等の中から上位のものを選抜しなければならぬ事は農業全体から必ずしも、向上の跡が認められたとは云えない様であります。

今後は、本地域の立地条件に適した農機具等が考案出品される事を切望してやみません。

七、農産加工

農山村の豊かな生活をするために、最も身近なしかも毎日の生活に欠く事の出来ない部門であり、その出品物の中からは丹精こめられた主婦の方々の努力のあとが窺われたのであります。が昨年にくらべて、出品点数の少なかつた事は一抹の淋しさをかんじました。次第であります。特に、味噌、醤油等については、折角努力はされてゐるものの案外に質の向上の跡が認められなかつたのであります。この事は根本的には麹の作り方に多くの問題が残されておると思われ、それに、大豆の混入割合の増加と共に味噌については落花生の混入等についても今後の研究をお願いいたします。

尚醤油の中には容器の臭気の非常に強いものが二、三あつた様であります。この点は特に注意を致しておきます。みそ漬等も大変立派なものもありましたが全般的に見て、原料みその質の向上と味噌漬の原料となる品物の品質の向上、並びに下漬等については格段の研究を願います。

その他の保存食等については昨年より変つた品物が多かり出品されておりました事は喜ばしい次第であります。が今後の研究によつて私達の身近にあるものの中で多少の手を加える事によつてその価値の非常に向上するものがたくさんあります。是等の加工品の増加する事を切望してやみません。また品物によつては保存食の共同加工と云う面も大いに考える必要がある様であります。

尚、たけのこ、ぜんまい芋がら等非常に立派なものがありました。が、之等については入賞と云う事よりも

造林地、山林用苗畑を審査して

林業改良指導員

技師 松井 徳男

昭和三十三年度における五ヶ瀬町の造林地、山林用苗畑の審査を行つて、出品されたものについて総じて例年より向上の実績が認められ、本町の林業が年毎に振興の一途をたどつてゐる実証であることを感じた次第である。

世の時勢に従ひ森林資源は遠慮なく開発されてゆき、いまや各国とも森林に対する関心は、驚くべきものがあり、これらの関係専門家は、それぞれの分野で研究や試験に余念なくその水準を擧げてゐると云われている。今日、私共直接関係のある林木生産者及び関係者は育林事業について、この数年から驚異的進歩がみられており今回の産業祭にも容易にこれを証明することが出来る。森林所有者に直接関係のある林業経営とは、育苗にはじまつて収穫に終るといつても過言ではないが、結局の目的は最も価値のある木材を最も短期間に最も多量に生産することにあると思われる。林木の生育は、林地の良否によることは勿論であるが、私は、環境と森林の生育との関係が最も因子ではなからうかと常に考えさせられてゐるのであるが、五ヶ瀬町の山林は全くこのことがそのまま合致してゐると思われる。又、従来は造林にあつては、とかく経験だけが尊重せられたきらいがあつたと思われるが体験は勿論重要といえようが、さらに林木の特性、これらの環境因子との関係を勘案した科学的基礎がなければこれからの林業は前進しないと

思う。前にのべたように短伐期の林業という言葉が林業界では流行語になつてゐる

野菜としての価値から見て将来共に維持生産さるべきものであると思われま

が、このことは、科学的基礎に立つて行へということになると思われる。とりもなおさず自然に育種林業という形で施業がなされるから、山林用の樹苗は当然従来のあり方と異つたものが出てくることになるわけである。出品された樹苗も、審査に當つて、先ず環境に應じた品種であるが、育苗の問題及び管理のあり方など、その外に審査条件を勘案して行われたことは云々までもない。品種について見ると、苗畑に品種が混植的な方法で作業が行われてゐるとすれば山出しの場合、余程の技術がないと選別が無理でありそのまゝ山出しを行つたことと将来成育に悔を残すことになるから最初から品種を統一しなければならぬ。育苗の問題については申しのべると折角優良な挿穂を準備しながら挿付の技術がたりないばかりに枯死させるとか、挿穂が誤つてゐたがために、発育不良に陥つてゐるとか、いまだ技術的に不備な点が多いように思われる。しかしながら挿付苗畑は満足すべき面積と量であり科学的基礎に立つたならば遠からず他地区をはるかに凌駕するものと確信する。次に管理であるが農作物の苗の管理までに行へとはいひ難いが通例土壌水分を適度に保ち挿付けた苗木が動揺しないよう工夫すべきであらう。私の経験ではモグラの被害は決して馬鹿にならないから注意すべき被害を蒙る。床土が破壊され軟弱になり発根率が極めて悪くなるから留意すべきである。防除としては昆虫類の幼虫が地下に棲息してゐるからモグラの好餌になると思われるのでBHCの粉

「考える森林の経営」ということで、お互にこの問題と、とりくんで考えていかねばならないと思います。そして又五ヶ瀬町として、最もその恵まれた林地にあるということに、責任と自覚と、感謝をしなくてはならないと思います。また、このことについては、ある本の中にもありましたが次のようなことを想像して見て下さい。

草も木も生えない砂漠のことを考えて見よう。そこには、人も住めず、鳥も啼かず、花も咲かない荒れ果てた土地であり、こんな土地が、地球上各所にあります。

風一たび起れば砂塵がうすまわく。盛つては散らし、堀つては埋める。これをくり返しているのが砂漠です。こんな砂漠に人が住めるようにするにはまず、第一に水を引き、木を植えることが最初の仕事になります。恵まれている場合と、そうでない場合とは、言葉では言い表わせないものがあるでしょう。

ヴァルガス兄弟がデンマークの荒地に植林して、草一本生えることのない不毛の地を豊沃の楽土として、現在のような世界の農業国の先進地にすることは、よく知られています。そんなことを思いますと、私たちは、愛林の祖先を持つたことを感謝し、特に恵まれた環境にあることを、もう一度考えて見たいものです。将来を思い、現在の私たちは、どのように、考え、そして、何をなすべきかということを、ジツクリ考えなければならぬと思います。

ことしの産業祭で、特に私が担当した林業面、中でも造林と育苗の審査をしました感想として

【造林の部】

今回は、特に、労力の不足した時代——戦時中に造林された林分について出品を願いました。全般の造林を対象にしなかつた理由は、世情の要求に応じ、今日の造林経営は、模範的なものばかりです。従つて、審査の標準を高めるネライもある

つたわけですね。以上のようなわけで、缺點とすべきものもいろいろあつて、まず次のことが言えます。

1、労働不足の時代の造林であつたから、立木の曲りが目立つていた。

2、苗木が不良であつたから、生育が不ぞろいである。(品種もいろいろまじつてゐる)

3、補植が行われていないところ、つるきり不充分等、草本木の支障で、生育不良のところがある。

4、間伐が一般におくれている。

その外、管理についての難点もあり、以上の欠点は、時代の流れが大きな原因であると思えない。然し私共は、時代の流れで仕方がなかつたということだけで、済ませるかどうかが、ふり返つて見て、これから先の参考にして見ましよう。

ただ戦時中は、例えようもない不満足なことばかりであつたから、このような時代に、造林ということに関心を以てやられた愛林者の皆さんに対しては、審査員として、無条件に、頭の下るものがあります。深く敬意を表します。それらの皆さんは、現在の私共にとつては、先覚者であり、指導者であることは申すまでもありません。

【育苗の部】

誰でも出来ることをすることとは何でもないことのように言うけれど、林業の面では、それが中々実行されるのが少いのが実状です。それ程、育林は、長期の事業だからであります。例えば、優等に選ばれた大石の田中さんは、植林が趣味であるという風に、植物に対する豊かな愛情が、にじみ出ていると思ひました。それが、この人の出品が、このたびの光榮となつたものになつていと言えます。

出品物は播種から行われたヒノキの苗畑であつたが管理から一切に至るまで万点であり、異常天候にも負けず良苗を育成された点は珍らしい。思わずやつて来た

霜害に見舞われ、少々徒長枝を犯されたのは万人が認めることです。

その外の苗畑は杉の挿穂によるものであつたが前年に比べ品種を統一した挿付方は、山出しにも、造林に便であり、大きく前進した育苗がわかります。

しかし異常に大きな穂づくりを行い、理くつに合わない場所を選ぶとか、経験本位の作業は深くつしみたものです。今後絶対注意を要することとして、一見容易なことのように思われる挿木法は、考えようによつては、決して容易でないことをわかつて頂きたいと思ひます。

こんど、苗木の需要はますます高まつて来ますし、現金収入の面からも忘れてならないものですから、一層研究、努力を願ひたいと思ひます。

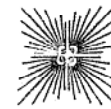


謹

賀

新

年



昭和三十四年元旦

五ヶ瀬町役場

職員一同

五ヶ瀬町議会

議員一同

五ヶ瀬町教育委員会

委員一同

三ヶ所農業協同組合

職員一同

鞍岡農業協同組合

職員一同

五ヶ瀬町農業委員会

委員一同

五ヶ瀬町消防団

団員一同

五ヶ瀬町選挙管理委員会

委員一同

五ヶ瀬町民生委員一同